

【中央設計技術研究所 長岡市で完成報告会開く 水管橋点検修繕マネジメントシステム】

長岡市で完成報告会開く

水管橋点検修繕マネジメントシステム

中央設計技術研究所

中央設計技術研究所(金沢市、西原秀幸代表取締役)は、長岡市水道局と共同で開発を進めていた「水管橋点検修繕マネジメントシステム」が完成し、このほど共同研究開発報告会を長岡市で開いた。写真。

近年、他県で発生した水管橋事故をきっかけに、水道関係法令の一部が改正され、異常が生じたときに水の供給に大きな支障を及ぼすおそれのある水管橋等の点検について、管理者に対し概ね5年に1回以上の点検を実施することが義務付けられた。そのような背景から、インフラ施設の老朽化対策が社会的課題と

なっている中、水管橋の維持保全の高度化・効率化を目指し、昨年からのシステムの試験運用と機能調整・拡張を、繰り返し実施しながら共同で開発に取り組んでいた。

システムの主な特長は、施設維持管理者が行う水管橋の保全管理に関する業務支援における、①水管橋台帳管理(地図上で水管橋792カ所の位置や基礎情報を管理)



②計画策定・実績管理表(更新・修繕・点検の計画策定や実績を管理。優先順位評価を行い、予算平準化機能により計画策定を支援)③点検様式出力・取込(水管橋に合わせた点検様

式(Excel)を出力し、点検結果を記入した点検様式をシステムに取り込むことで点検DBを構築)④水管橋健全度評価・予測(構築した点検DBを基に水管橋の健全度予測を行う。予測の結果は「②計画実績表」にて計画の見直しに活用)⑤予算管理(「②計画実績表」にて作成した計画より、次年度実施事項を一覧表に表示し、優先順位を基に予算化検討を支援)の機能を有し、水管橋管理保全の高度化、水道事業体職員の業務負担軽減を図り、安心・安全な水道事業運営への貢献を図る。

今後、職員の業務の効率化や水管橋の劣化予測に関してシステムの有効性を検証するとともに、点検業務支援となるモバイル端末の活用など、さらなる効率化・高度化を目指す構え。